



原油、需給の引き締め支え

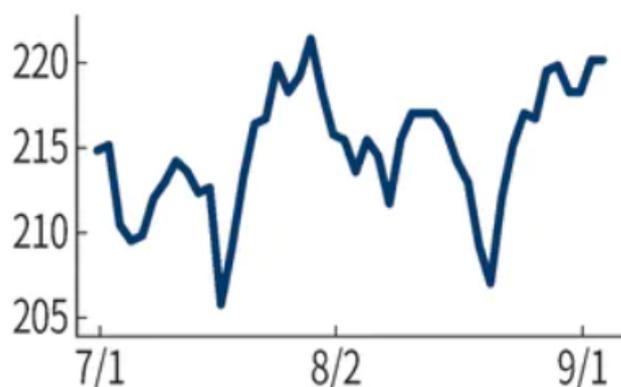
原油の価格は底堅く推移しそうだ。8月の米雇用統計は景気回復の減速を示唆する内容で、3日の米国市場では原油先物が1バレル69ドル台前半まで下落した。ただ、米国の石油在庫は過去5年のレンジの下限近くに減少しており、需給の締めりが引き続き意識されそうだ。

穀物相場はハリケーン「アイダ」の影響が注視される。米レイジアナ州の穀物輸送拠点を直撃し、輸出の停滞で相場に下押し圧力がかかった。輸出が改善に向かえば、反発材料になりそうだ。

10日には米農務省が毎月の需給報告を公表する。「トウモロコシや大豆のイー
ルド（1エーカーあたりの生産量）予測
の下方修正の有無が注目点」（マーケットエッジの小菅努代表）との声がある。

金先物相場は3日のニューヨーク市場で上昇し、一時は1トロイオンス1830ドル台と中心限月として7月下旬以来1カ月ぶりの高値を付けた。米国の早期の緩和縮小観測が後退し資金が流入した。

CRB指数





ウメモト インフォメーション



2021年 9 月 6 日 担当 小松

製品値上げ

PVAを30円

日本酢ビ・
ポバール

日本酢ビ・ポバールは15日出荷分からポリビニルアルコール(ポバール、PVA)を値上げする。改定幅は1キモ当たり30円。原料の酢酸およびナフサ(エチレン)の高値が継続しているなか、酢

ビ、PVAの需給は一段とひっ迫している。価格改定によって、安定供給の維持と採算の改善を図る。

酢ブチ30円以上

KHネオケム

KHネオケムは21日納入分から酢酸ブチル、酢酸ブチルP、酢酸ブチルSを値上げする。改定幅は1キモ当たり30円以上。原料価格が上昇し、製品の海外市況が高騰し

塩酸6円以上

トクヤマ

トクヤマは10月1日出荷分から塩酸を値上げする。改定幅は1キモ当たり6円以上。長年にわたる市況軟化と物流費の上昇、製造・出荷設備の維持・更新の投資増大によって採算が悪化している。安定稼働・供給を維持していくうえで、増加コストを合理化努力のみで吸収することは困難と判断し、価格修正を決めた。

ている。安定供給を維持するため価格改定に踏み切らざるを得ないと判断した。

高分子凝集剤
10月出荷分から

ハイモ

ハイモは10月1日出荷分から高分子凝集剤を値上げする。修正幅は粉末品が1キモ当たり60円、液体品が15〜50円。主原料の高騰に、物流費の上昇、内需の長期低迷とコロナ禍における需要減少による固定費の増加が重なり、合理化などの自助努力で増加コストを吸収してきたが、対応の限界に達したため価格を改定する。

イオン交換
樹脂を8%

ビュロライト

ビュロライトは10月1日出荷分からイオン交換樹脂を値上げる。ライフサイエンスを除くイオン交換樹脂を対象に現行価格比8%引き上げる。安定供給の確保に向けた生産設備への大規模投資、主原料、副資材、物流、ユーティリティーなどのコスト上昇が要因。自助努力による吸収の限界を超えたため値上げを決定した。

PS12円以上

東洋スチレン

東洋スチレンは10月1日納入分からポリスチレン(PS)を値上げる。改定幅はGPクレード、HIクレード、特殊クレード、難燃クレードともに1キモ当たり12円以上。主原料スチレンモノマーの価格が上昇している。増加コストは自助努力で吸収できる範囲を超える。安定供給と事業の継続のため価格改定が避けられないと判断

え、安定供給と事業を継続するため価格を改定する。

PS・スチレン
系12円以上

DIC

DICは10月1日納入分からポリスチレン(P S)およびスチレン系製品を値上げる。対象はディックスチレンGPP S、ハイブランチ、ディックスチレンHI PS、エラスチレンで、改定幅は1キモ当たり12円以上。7月にも価格改定を実施したが、ナフサ・ベンセンがさらに高騰し、原料コストが上昇している。増加コストを自助努力で吸収するのは困難な状況にあり、安定供給と事業の継続のため価格改定が避けられないと判断した。

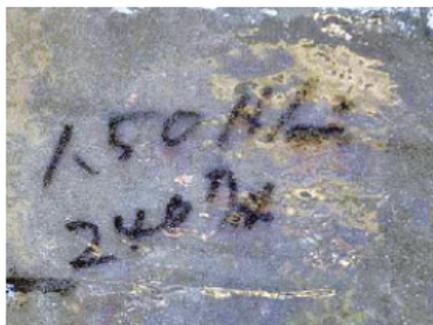
酸化鉄系など
無機顔料製品

ランクセス

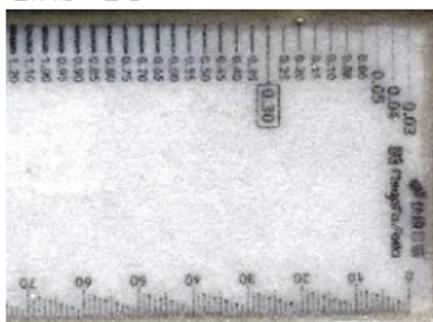
独ランクセスは2日付で無機顔料製品を世界的に値上げた。1キモ当たりの改定幅は酸化鉄顔料が200キモ以上、酸化クロム顔料が300キモ以上、フェライトが250キモ以上(または相当する現地通貨)。製品や地域によって状況が異なるため具体的な内容は個別に連絡する。

ざるを得ないと判断し

清水建設ら／コンクリ機能保持技術を改良／被覆材を透明化、状態確認可能に



タフネスコート工法クリア吹き付け後のコンクリート。文字やクラックスケールを確認できる



清水建設は、三井化学産資（東京都文京区、橋明宏社長）と共同開発したコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」を発展させ、構造物に被覆するポリウレタ樹脂を透明化する工法を開発した。被覆材を透明化することで施工後の下地コンクリートの状態が透けて見え、ひび割れを確認したり、下地に書いた文字やクラックスケールが確認できたりするようになる。

同工法は、コンクリート構造物の表面にポリウレタ樹脂を薄く吹き付けるだけで剥落防止性能や貯水性能、耐久性を高め、構造物の長寿命化につながる機能を付加する。ポリウレタ樹脂の特性で引張力が作用しても破断しにくく、引っ張りに弱いというコンクリートの弱点も克服した。

同工法を改良した「タフネスコート工法クリア」は、表面を被覆した後も下地コンクリートの状態を確認したいというニーズに応じて開発した。ポリウレタ樹脂の成分配合を工夫し、被覆材の変色を防止。白濁の原因となる独立気泡の混入を極力抑え、従来工法よりも硬化開始時間を遅らせることで、気泡を被覆材から除去する時間を確保した。これにより透明な状態で変色の度合いの少ない被覆を実現した。吹き付け後約3分で硬化し早期に所定の強度を発現する。

従来のタフネスコートの樹脂材料は、吹き付け時に混入する微小な独立気泡に光が乱反射して白濁化したり、紫外線で樹脂成分が黄変したりしていた。下地コンクリートの状態を施工後に確認することが困難だった。今後はタフネスコートシリーズの現場適用を進め、コンクリート構造物の維持管理の効率化に寄与していく。

中国2大石化、回復鮮明

上期業績が大幅伸長

原油価格上昇で収益改善

コロナ禍からの反動需要

【上海＝石田亮】中国の2大石油・化学企業の2021年上期（1～6月）の化学部門の業績は、前年同期から大幅に伸長し、コロナ禍からの脱却を国内外に印象づける結果となった。原油価格の上昇により、石化製品の収益性が大幅に改善したほか、コロナ時の需要減から反動増によって市況が好転したことが主な要因とみられる。中国石化（SINOPEC）の営業利益は前年同期から300%超増の130億元（約2211億円）。中国石油（CNPIC）も前年同期から280%増の87億元となった。一方で両社の共通認識として、世界的に感染が広がっており、原油価格の先行きも含めて不透明とみている。

（精製部門含む）の上期の売上高は同24.2%増の4593億元（約7兆8140億円）。原油加工量は同6.7%増の8200万ト。エチレン生産量は同1.9%減の304万ト。化学製品の生産量は同6.3%増の1472万ト、合成樹脂は1.0%増の507万トと小幅な増加となった。販売量も同じくポリエチレン（PE）、PPともに1ト当たりの価格が15～20%増加したことで、大幅増益に貢献した。

【中国石化・中国石油の2021年上期の業績】 (▲はマイナス)

	単位	中国石化		中国石油		
			伸び率		伸び率	
化学部門	売上高 ※1	100万元	233,183	30.5	459,384	24.2
	営業損益	100万元	13,005	328.4	8,700	280.3
グループ全体	売上高	億元	12,616	22.1	11,965	28.8
	純損益	億元	399	—	530	—
	エチレン生産量	1000ト	6,463	11.9	3,043	▲1.9
	原油加工量 ※2	100万ト	126	13.7	82	6.7

※1 中国石油は石油精製部門と化学部門の合算
 ※2 原油は1ト=7.389トで換算

化学部門の売上高を見ると、中国石化は同30.5%増の2331億元（約3兆9657億円）。エチレン生産量は同11.9%増の646万ト、基礎化学品原料の販売数量は、同6.6%増の2337万トと堅調に推移した。製品価格の上昇は鮮明だ。基礎化学原料（同40.3%増）、合成樹脂（同22.7%増）、合成繊維（同8.6%増）、合成ゴム（同36.7%増）、化学肥料（同38.3%増）と軒並み増加した。中国石油の化学部門

急がれるハイエンド体制構築

中国石化は下期の市場を展望し、コロナが沈静化すれば国際市場も上向きと期待する一方で、国内はリファイナリーの供給過剰により、市場競争は激しくなると予測。中国石油・化学工業連合会（CPCIE）の傳向升副会長も先の経済報告会の壇上で「国内の石油製品市場は飽和傾向にある。精製、工場をアップグレードさせ、産業チェーンを拡張させることが必要だ」とハイエンド品の生産体制構築が急務と語った。



持続社会構築へ転換点迎える韓国石化

SK、環境関連に500億円

韓国SKイノベーションの子会社SKグローバルケミカルは8月31日、9月から社名をSKジオセントリックに変更し、「再生プラスチック廃棄物を使用する世界最大の都市油田企業」を目指すと言った。プラスチックリサイクルやクリーンマテリアルの拡大に向けて2025年までに5兆円(約4800億円)を投資する。



SKグローバルケミカルは1日に社名をSKジオセントリックに改めた

新社は、地球と土壌を意味する「ジオ」と中心を意味する「セントリック」を組み合わせて、地球環境を最優先に考え、廃プラスチック汚染問題を解決しよ

うとする強い意志を表現した。かねてより、25年までに同社の現在の韓国国内でのプラスチック生産量に相当する年90万トンの廃プラをリサイクルとの目標を掲げていた。これはダウが25年までの目標としている年100万トンを迫る。27年には海外拠点を含めた生産量である年250万トンをリサイクルし、この分野で世界の先頭に立つ。

ナ・ギョンス社長は「プラスチックリサイクル市場は30年までに12%成長し、プラスチック廃棄物の市場規模は50年までに600兆

月に来プライトマークと、韓国初の大規模な熱分解プラントの商用化と設備投資に向けた覚書(MOU)を

縮結した。7月にはPETの解重合技術を持つ加ルーブインダストリーの株式10%を取得。30年までにアジアに4つの生産施設を建設し、合わせて年40万トンを処理する計画に乗り出した。8月には廃ポリプロピレン(PP)のリサイクルを目的に、米国のリサイクル企業、ビュアサイクル、テクノロジーズと合弁企業の設立を決定。韓国に年間約5万トンの処理能力を持つリサイクルプラントを建設し、25年までに商業運転を開始する。

バイオマス原料を利用して、化石燃料由来のプラスチックの生産量を減らしていく計画。環境配慮型素材の生産能力を年50万トから25年には190万トにまで拡大する。

先月19日にはLG化学が「環境にやさしい素材のビジネスの本格化を知らせるシクナル(シン・ハクチヨル社長)」として28年までに2兆6000億円を投じて韓国の大山拠点を拡張し、ESG関連事業のメッカとして発展させる計画を発表した。79万平方メートルの用地を取得し、生分解性プラスチックのポリブチレンアジバートテレフタレート(PBAT)や太陽電池用ポリオレフィンエラストマー(POE)を皮切りに、バイオマス原料、エコマテリアル、廃プラスチックリサイクルなどの新工場10棟を建設する。SKジオセントリックがこれに続くことで、循環型社会の構築へ向けて韓国石化産業の大転換がさらに進むことになりそうだ。

LGに続き脱化石推進 廃プラリサイクル 世界牽引

【SKジオセントリックの主要な環境事業推進策】

時期	内容
2021年1月	米プライトマークと大規模熱分解プラントの商用化へMOU締結
3月	ボスコと自動車軽量化複合材料開発で協力
4月	コーロンインダストリーと生分解性樹脂PBAT事業化のためのMOU締結
6月	韓スマートモビリティ協会と電気自動車を軽量化する素材開発でMOU締結
6月	PET解重合技術を持つ加ルーブインダストリーの株式10%を取得
7月	蔚山市と国内最大規模の廃プラリサイクル設備の建設でMOU締結
8月	米国ビュアサイクルテクノロジーズと廃PPリサイクル合弁設立へMOU締結